

昭和館館報

令和4年度

ごあいさつ	1	(5) SNSの活用	17
フロア構成	2	(6) Wi-Fi提供	17
年間主要行事	3	2 オーラルヒストリーの制作	17
令和4年度事業概要	4	IV 啓発広報等事業	18
I 展示事業	4	1 広報活動	18
1 常設展示	4	(1) 広報資料の作成及び発送	18
(1) 常設展示室の概要	4	(2) 広報と掲示及び掲載	18
(2) 展示資料の入れ替え	4	(3) 昭和館だよりの発行	19
2 巡回特別企画展の開催	4	(4) 戦中・戦後の労苦を伝える 次世代の語り部事業	19
(1) 第41回巡回特別企画展 「くらしにみる昭和の時代 神奈川展」	5	①事業の概要	19
(2) 第42回巡回特別企画展 「くらしにみる昭和の時代 沖縄展」	6	②事業の実施状況	19
3 貸出キット	7	(5) 第21回昭和館見学作文コンクール	21
4 紙芝居定期上演会	7	(6) 第15回昭和館中学生・ 高校生ポスターコンクール	22
5 教員のための博物館体験	8	2 『昭和のくらし研究』の刊行	22
6 実物資料の収集と保存	8	3 昭和館運営専門委員会の開催	23
(1) 実物資料の収集	8	4 昭和館運営有識者会議の開催	24
(2) 実物資料の保存と補修	8	5 インターンシップ	24
7 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作	8	6 関係施設等連携会議の開催等	24
II 図書映像資料等閲覧事業	9	(1) 第22回、第23回会議について	25
1 図書文献関係	9	(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」	25
(1) 運用管理	9	(3) 移動教室「軍人たちの描いた大陸スケッチ」	25
①閲覧室及び書庫の管理	9	(4) 巡回特別企画展の相互協力	25
②レファレンス・サービス (参考調査業務)	9	V 特別企画展等の開催及び概要	26
③利用ガイドの発行	9	1 特別企画展 「お菓子の記憶～甘くて苦い思い出たち～」	26
④展示関連図書の公開と参考図書 リストの配布、読書案内	9	2 特別企画展「九段会館がみた昭和」	27
⑤ホームページ	10	3 特別企画展「時代をまとう女性たち」	28
⑥蔵書点検	10	4 1階ロビーでの資料展示	29
⑦利用状況	11	5 写真展 「乗り物のある風景-昭和のくらしと交通事情-」	29
(2) データ管理	12	6 写真展 「子どもたちの戦中・戦後」	30
(3) 保存管理	12	7 資料公開コーナー	31
(4) 業務研修	12	参考	
2 映像・音響関係	12	1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和4年度)	32
3 ニュースシアター	13	2 令和4年度利用者実績	33
4 収蔵資料	13	3 常設展示室入場者数	33
(1) 図書資料の収蔵状況	13	4 来館団体御芳名	34
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	14	5 第21回昭和館見学作文コンクール 厚生労働大臣賞・昭和館館長賞	39
III 関連情報提供事業	15	6 第15回昭和館中学生・高校生ポスター コンクール入賞作品	41
1 運用管理	15	7 施設概要	44
(1) システム運用管理	15	8 令和4年度寄贈者御芳名	46
(2) データベース運用管理	16		
(3) デジタルアーカイブ構築・公開	16		
(4) ホームページ運用管理	17		

口 絵
外観写真





廢墟からの出発
Departing from the ruins

戦後の食糧事情
Postwar food situation
戦後の住宅事情
Postwar housing situation
闇市
Black market
混乱期の生活
Life in a period of confusion

6階 常設展示室「廢墟からの出発」

終戦後の銀座四丁目付近 昭和20年（1945）11月頃 菊池俊吉撮影



7階 常設展示室「銃後の備えと空襲」



6階 常設展示室「復興に向けて」



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



1階 ニュースシアターにて紙芝居上映会



特別企画展 「お菓子の記憶 ～甘くて苦い思い出たち～」
(令和4年7月16日～9月4日)



特別企画展 「九段会館がみた昭和」
(令和4年7月16日～9月4日)



昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館 3館連携企画展
「くらしにみる昭和の時代 神奈川展」
横浜市民ギャラリーあざみ野展示室1・2
(令和4年11月18日～11月26日)



巡回特別企画展
「くらしにみる昭和の時代 沖縄展」
那覇市民ギャラリー第1～3展示室
(令和4年11月30日～12月10日)



特別企画展 「時代をまとう女性たち」
(令和5年3月11日～5月7日)



特別企画展 「時代をまとう女性たち」
(令和5年3月11日～5月7日)

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月開館。令和5年3月に総入館者数は650万人を超えました。

また、令和4年10月には、羽毛田館長が退任され、後任として、私、伍藤が館長に就任いたしました。前任者同様、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

さて、令和4年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底して行いながら、イベント等を開催して参りました。4年度もコロナ禍の下での運営となりましたが、来館者数は、コロナ流行前の令和元年度の半数程度にまで戻りました。

3月から5月には、新型コロナウイルスの感染症の拡大防止に伴い、令和2年3月に開催中止となった特別企画展を再構成した「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク ～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～」、写真展「うつりゆく昭和の九段下界限」、また、7月から9月には、特別企画展「お菓子の記憶～甘くて苦い思い出たち」と「九段会館がみた昭和」の2本立て、9月から12月には、写真展「乗り物のある風景－昭和のくらしと交通事情－」、常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナー、夏休み3館めぐりスタンプラリーについては、感染防止対策を講じながら実施し、小学生・中学生の作文コンクール、中学生・高校生のポスターコンクール、奇数月の紙芝居上演会の実施、紀要「昭和のくらし研究」発刊などを行いました。

一方で、昭和館も例年参加してきたイベント「こども霞ヶ関見学デー」は、オンラインでの参加となりました。

また、「次世代の語り部」事業では、現在、育成を終えた17名の語り部が、館内での定期講話会に加えて、小・中学校や自治体の平和イベント等へ赴いて講話を行いました。

巡回特別企画展については、11月に神奈川県（横浜市）、11月から12月にかけて沖縄県（那覇市）で開催し、神奈川県では「しょうけい館」・「平和祈念展示資料館」との3館連携企画展を同一会場で実施することができました。

さらに、本年3月から5月にかけて、特別企画展「時代をまとう女性たち」を開催するとともに、写真展「子どもたちの戦中・戦後」を開催することができ、それぞれ1万人を超える入場者をお迎えできました。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、令和4年度の活動状況をとりまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

コロナ禍も一段落した状況ではありますが、今後とも若い世代の皆様に戦中・戦後の労苦を知っていただくため、各種資料の収集充実に努め、更に魅力ある企画展の開催と様々な観点からの情報提供が出来るよう、館の運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年7月

昭和館
館長 伍藤 忠春

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

令和4年 3月12日～5月8日	特別企画展を開催 「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク ～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～」
3月19日～5月8日	写真展を開催 「うつりゆく昭和の九段下界限」
6月27日～6月29日	紙芝居定期上演会（奇数月第4土曜日、巡回特別企画展開催中 のため11月は第2土曜日に変更） 次世代の語り部定期講話会（原則毎月第1日曜日 1月は第 2日曜日）
7月6日	令和4年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
7月16日～9月4日	特別企画展を開催 「お菓子の記憶～甘くて苦い思い出たち～」 「九段会館がみた昭和」
7月16日～9月4日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
8月3日～8月4日	こども霞が関見学デー（オンライン参加）
8月15日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」
9月10日～12月18日	写真展を開催 「乗り物のある風景—昭和の暮らしと交通事情—」
11月18日～11月26日	第41回巡回特別企画展（3館連携）を開催 「くらしにみる昭和の時代 神奈川展」
11月30日～12月10日	第42回巡回特別企画展を開催 「くらしにみる昭和の時代 沖縄展」
令和5年 1月5日～1月16日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
2月15日	令和4年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月1日～3月14日	図書室の蔵書点検・資料整理を実施（休室）
3月11日～5月7日	特別企画展を開催「時代をまとう女性たち」
3月15日	第23回昭和館運営有識者会議を開催
3月18日～5月7日	写真展を開催「子どもたちの戦中・戦後」

令和4年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。
(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示室の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年頃から、昭和20年8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

令和4年度は、6月27日(月)から6月29日(水)までの3日間にかけて、資料交換作業を実施した。また、令和5年1月5日(木)から1月16日(月)までの12日間、常設展示室を休室し、第11回常設展示室展示替え、および資料交換作業を実施した。経年劣化により不具合を起こしていた7・6階ウォールケースの照明改修工事をおこなった。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

令和4年度は、次の通り実施した。

(1) 第41回巡回特別企画展

昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館3館連携企画展

「くらしにみる昭和の時代 神奈川展」

開催期間 令和4年11月18日(金)～11月26日(土)

会場 横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1・2

(神奈川県横浜市青葉区あざみ野南1-17-3)

主催 昭和館 しょうけい館 平和祈念展示資料館

協力 一般財団法人神奈川県遺族会および日本遺族会第2ブロック

後援 神奈川県 神奈川県教育委員会 横浜市 横浜市教育委員会
神奈川新聞社

内容 戦後生まれの世代が大多数を占める今、戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、次の世代へ語り継ぐため、東京の3つの国立の施設が合同で展示をおこなった。昭和館は、戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるため、神奈川県ゆかりの実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介した。

入場者数 943人(約105人/1日)

巡回特別企画展 神奈川展

入場無料

昭和館
しょうけい館
平和祈念展示資料館

3館連携
企画展

令和4年
11月18日(金)
→ 26日(土)

横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1・2
(神奈川県横浜市青葉区あざみ野南1-17-3アール・フランスビル6F)
午前10時～午後6時

主催 昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館 後援 神奈川県、神奈川県教育委員会、横浜市、横浜市教育委員会
協力 一般財団法人神奈川県遺族会および一般財団法人日本遺族会第2ブロック

昭和館	しょうけい館	平和祈念展示資料館
<p>戦争による苦難と戦後の復興 実物資料、写真、影音映像を通じて、 昭和10年代から昭和30年代までの 人々のくらしを紹介します。</p>	<p>水木しげるが伝えた戦争体験 漫画家・妖怪研究家として広く知ら れている水木しげるさんが体験された 戦中・戦後の労苦を紹介します。</p>	<p>戦後、シベリアを結ぶとるろろ道 やエンジェルに運行された戦時強制 輸送車、爆らが舞臺の地で体験した 「出陣」を紹介します。</p>

昭和館 | しょうけい館 | 平和祈念展示資料館(国指定資料館)

(2) 第4 2回巡回特別企画展

「くらしにみる昭和の時代 沖縄展」

開催期間 令和4年11月30日(水)～12月10日(土)
*12月5日(月)は休館日

会場 那覇市民ギャラリー 第1～3展示室
(沖縄県那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ6階)

主催 昭和館

協力 一般財団法人沖縄県遺族連合会および日本遺族会第5ブロック

後援 沖縄県 沖縄県教育委員会 那覇市 那覇市教育委員会
那覇市民ギャラリー 沖縄タイムス社 琉球新報社
毎日新聞那覇支局 読売新聞那覇支局 琉球放送
沖縄テレビ放送 NHK沖縄放送局 琉球朝日放送
沖縄ケーブルネットワーク ラジオ沖縄 エフエム沖縄

内容 戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるため、沖縄県ゆかりの実物資料・写真資料等を通じて、困難の多かった時代における人々のくらしを紹介した。

入場者数 2,152人(約215人/1日)

巡回特別企画展 沖縄展

昭和館 巡回特別企画展

くらしにみる
昭和の時代
沖縄展

入場無料

2022年(令和4年)
11/30(水)～12/10(土)
午前10時～午後7時 12/5(月)は休館日

【会場】那覇市民ギャラリー 第1～3展示室
【所在地】那覇市久茂地1丁目1番1号 パレットくもじ6階

【後援】沖縄県 沖縄県教育委員会 那覇市 那覇市教育委員会 那覇市民ギャラリー
沖縄タイムス社 琉球新報社 毎日新聞那覇支局 読売新聞那覇支局 琉球朝日放送 琉球放送
沖縄テレビ放送 NHK沖縄放送局 琉球朝日放送 ラジオ沖縄 エフエム沖縄 沖縄ケーブルネットワーク

【協力】一般財団法人沖縄県遺族連合会および日本遺族会第5ブロック

〒292-0874 東京都千代田区八潮1-6-1
TEL:03-3922-2077 FAX:03-3222-2575 <https://www.shokan.jp>
<https://twitter.com/shokanokuday> <https://www.facebook.com/shokanokuday/>

3 貸出キット

令和4年度の貸出状況は、次の通りである。

<貸出先> (貸出実施順)

(学校) 7校

富士見市立水谷中学校／栄町立安食台小学校／松江市立大庭小学校／利島村立利島小・中学校／歐友学園女子中学高等学校／岐阜県関市立板取小学校／相模女子大学小学部

(地方公共団体) 11自治体

横須賀市民生局地域支援部市民生活課／川口市役所／杉並区役所／上尾市役所／海老名市保健福祉部福祉総務課／台東区役所／市川市市民生活支援課／新宿区立大久保図書館／市川市総務課／和光市役所／潮来市立図書館

(一般団体) 7団体

綾瀬市遺族会／大森コラボレーション／浜松市遺族会／佐賀市遺族連合会／連合富山／G-kidz アフタースクール／あさひ九条の会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居を使い、紙芝居師が実演する上演会を奇数月第4土曜日に実施している。11月は巡回展期間と重なるため、例外として第2土曜日に開催した。入場者の状況は以下の通りである。

上演月	入場者
令和4年 5月28日	37人
7月23日	69人
9月24日	42人
11月12日	52人
令和5年 1月28日	79人
3月25日	72人
合計	351人

5 教員のための博物館体験

例年、学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教員を対象とした博物館見学を夏休み期間に実施してきたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

令和4年度は収蔵庫の整理に注力し、資料収集については最小限にとどめた。収蔵機能が改善し収蔵スペースが確保された段階で、資料収集を再開する予定である。

収蔵資料数は次表の通りである。(令和5年3月末現在)

寄 贈 資 料	46,273点
購 入 資 料	14,646点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
合 計	64,162点

(2) 実物資料の保存と補修

実物資料の保存環境を改善するため、収蔵庫の調湿機能の向上に努めている。資料の保存容器を中性紙箱に差し替えるとともに、紙資料の酸化劣化を防ぐため、順次ポスター資料から脱酸処理を実施している。令和4年度は71点のポスター資料および絵画資料の修復および脱酸処理をおこなった。

7 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作

巡回特別企画展の開催を予定している都道府県に関連する、戦中・戦後の労苦体験をされた方々の証言を聞き取りし、撮影・制作した「オーラルヒストリー」を巡回特別企画展会場で上映している。

令和4年度は、巡回特別企画展の未開催地である千葉県に関連した「オーラルヒストリー」として、日本テレビアナウンサーとして活躍し、現在は皇室ジャーナリストをつとめる久能靖氏への聞き取りを撮影した。

作品タイトル	証言者
ジャーナリストが見た昭和	久能 靖

II 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

利用頻度が高い基本図書や新刊書、総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的使用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは様々なテーマに沿った資料紹介を行っている。

令和3年度より新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一部サービスの制限等を行っていたが、11月1日から制限の一部を緩和した。ソーシャルディスタンスを保つための座席の減数とアクリルパーティションの設置、開架資料の除菌ボックスでの消毒は継続して行う。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

令和4年度に対応したレファレンスは200件で、特に8月に多かった。内容は多岐にわたるが、特別企画展で展示した九段会館（軍人会館）やテレビ番組や映画制作会社などからの時代考証のためのレファレンスが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイド等に反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

平成27年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？ 昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2～3カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、令和4年度は巡回特別企画展を開催した神奈川県、沖縄県を含め5県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、令和4年度は、「戦時下の医療従事者」「あの頃の動

物たち」「地震・台風・水害…～自然災害の記録～」の他、F I F Aワールドカップの開催時期には「日本サッカー 戦中戦後のあゆみ」、映画「ラーゲリより愛を込めて」公開時期には関連図書を紹介する等、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書等を紹介した。

また、特別企画展及び写真展、資料公開コーナー等の内容と連動した図書・雑誌の公開も行っており、「お菓子の記憶」「乗り物のある風景-昭和のくらしと交通事情」「時代をまとう女性たち」「子どもたちの戦中・戦後」「図書・雑誌に見る空襲への備え」等の関連資料を紹介した。

令和4年7月16日（土）から9月4日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布し、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また同期間、小学生を対象にしたテーマ別の「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。特別企画展「お菓子の記憶～甘くて苦い思い出たち～」に関連したテーマ「子どもたちとお菓子」を作成し、過去に作成した「学校生活」「学童疎開」「空襲」「くらしの道具」「動物園と戦争」とあわせて6種類を配布したところ、約950枚配付し430枚の提出があった。ワークシートに挑戦した子どもたちには、図書室オリジナル缶バッジ等の記念品を贈呈した。

令和4年2月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した展覧会「軍人たちの描いた大陸スケッチ」に関連して、関連本コーナーを設ける等、館内外との協力・連携を図った。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料の入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索等さまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようにしている。

⑥ 蔵書点検

令和5年3月1日（水）から3月14日（火）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。4階開架及び4階書庫内の閉架図書を重点的に点検、必要に応じて蔵書の移動を行い、破損が著しい図書の修理や製本を行った。

⑦ 利用状況

令和4年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
令和4年4月	717	135	902
5月	863	136	678
6月	642	123	551
7月	874	112	424
8月	1,356	147	612
9月	718	133	578
10月	641	159	651
11月	762	113	490
12月	528	107	438
令和5年1月	652	98	411
2月	1,126	127	590
3月	472	66	286
合計	9,351	1,456	6,611

令和4年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	113	2,303
哲学	24	0
歴史	588	182
社会科学	1,078	402
自然科学	19	39
技術・工学・工業	289	250
産業	81	59
芸術	152	301
言語	23	5
文学	553	57
合計	2,920	3,598

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・ 雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌等の一般雑誌が含まれる。
- ・ 図書・雑誌以外では、地図92点、海図1点が利用された。

(2) データ管理

収蔵図書の本誌及び目次データは、随時点検、追加入力および修正作業を進めている。令和4年度は令和3年度に受け入れた図書・雑誌1, 129冊及び令和4年度に寄贈を受けた半藤一利氏の旧蔵書の1, 600冊の本誌及び目次データの入力と装備を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、令和4年度は421冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供等、図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に例年職員業務研修に参加している。

令和4年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン配信での開催となったが、日本図書館協会主催「第108回全国図書館大会」及び「図書館総合展」に視聴参加し、業務の向上に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室は、利用者の使用ごとに実施していた来館者端末等の清掃（ディスプレイ、マウス、キーボード）及び座席まわり、受付カウンター等のアルコールティッシュによる清拭は一斉清掃時のみとし、団体見学者と一般利用者のエリア分けは廃止した。利用者の使用ごとにヘッドホンの交換・消毒の実施は継続した。

ゴールデンウィーク期間（令和4年5月1日～5月8日）には、来館できない方にも収蔵資料を知っていただくため「おうちで映像・音響室の資料を見てみよう！」と題してSNSを活用し、クイズ形式で写真、映像資料を紹介した。

写真展「乗り物のある風景－昭和の暮らしと交通事情－」の開催にあわせ、5階映像・音響室入口前の大型テレビにて、昭和21年の銀座や浅草など街の様子、その他写真展で取り上げたトピックに関する映像を紹介した。

また、昨年度に入手した映像資料「映像タイムトラベル」を9月に47本、令和4年1月に50本、計97本を新たに公開した。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画と新作のオーラルヒストリーを毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館 懐かしのニュースシアター」では、令和4年度は217本のニュース作品と9作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

また、令和5年2月8日（水）から14日（火）に平和祈念展示資料館が九段生涯学習館で開催した特別展示「軍人たちの描いた大陸スケッチ」の連携企画として、大陸の様子を伝えるニュース映像を紹介し、連携をはかった。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

令和4年度は前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や部隊史、少年少女雑誌・児童向け図書等を中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（令和5年3月末現在）

国民生活関係図書	72, 227冊
戦争に関する基本的図書	23, 834冊
独自資料	35, 980冊
その他	11, 687冊
合計	143, 728冊

<令和4年度の主な受入資料の内訳>

- 国民生活関係 3, 248冊
 - ・当時刊行された雑誌類や生活体験記等
『週刊朝日 昭和20年8月12日・19日』
『絹毛織物スフ・人絹 洗張被服更生讀本』
『悲しみの夏 北海道空襲を忘れない』
『原子爆弾空襲の体験』等
- 戦争に関する基本的図書 893冊
 - ・太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等
『太平洋戦争沈没艦船遺体調査大鑑』
『第一御楯特別攻撃隊の全記録』
『京都大学における「学徒出陣」調査研究報告書 第一巻』

『絵が語る八重山の戦争』等

- その他 1冊
 - ・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等
 - ・ 定期購読誌
『文藝春秋』『中央公論』『軍事史学』『丸』

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。令和4年度は、今年度のオーラルヒストリー話者でもある鈴木路雄氏が撮影した写真他を入手し、館内アーカイブ及び昭和館デジタルアーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<令和4年度の主な受入資料>

- (1) 記録写真 2, 498点
 - 大野修一氏撮影写真（昭和24年頃の岐阜市の写真等）
 - 師岡宏次氏撮影写真（昭和10年～40年頃の東京） 他
- (2) 音響資料 43点
 - 個人寄贈のSPレコード及び歌詞カード

<令和5年3月末現在の公開データ件数>

	データ件数
静止画資料	32,720件
動画資料	3,535件
音響資料	14,342件
計	50,597件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内110カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館との横断検索ができるようになっている。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌等）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。さらに今年度は、機能追加、データ項目の追加等の改修を行い利便性や操作性を高めた。

令和4年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は388,391件、月平均約32,366件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
令和4年4月	3,040	2,575	21,079	5,518	9,529	27	41,768
5月	1,952	2,101	21,407	6,190	2,508	45	34,203
6月	2,581	1,303	16,774	5,378	1,973	30	28,039
7月	2,170	1,087	15,164	5,765	2,071	37	26,294
8月	3,440	2,216	23,978	9,459	3,647	72	42,812
9月	2,459	1,416	16,832	4,895	2,598	18	28,218
10月	2,840	2,330	19,450	4,754	1,773	28	31,175
11月	2,554	2,078	20,442	5,306	2,194	46	32,620
12月	3,310	1,013	14,008	4,171	1,628	8	24,138
令和5年1月	1,779	1,985	20,242	4,246	1,432	24	29,708
2月	1,760	2,129	21,228	5,618	2,049	77	32,861
3月	1,192	955	26,153	5,746	2,494	15	36,555
合計	29,077	21,188	236,757	67,046	33,896	427	388,391

(2) データベース運用管理

図書室及び映像・音響室では、収蔵資料のデジタル化、記録資料のデータベース化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

【総合データベース】

○ 図書資料データベース

図書室が収蔵する、図書、雑誌の書名・著者名・雑誌名等の書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力し、検索ができる目録データベース。図書、雑誌以外では、地図、海図についても図名その他、地域や海域からの検索することができる。図書、雑誌、地図、海図の全ての資料の横断検索も可能である。

○ 映像・音響資料データベース

映像・音響室が収蔵する写真、映像及び音響資料(S Pレコード)の資料情報(タイトル、年代、作曲者名等)をデータベース化し、検索・閲覧(視聴)できるデジタルアーカイブ。写真、映像、音響資料の横断検索も可能である。

【個別データベース】

○ デジタルライブラリー

年鑑と雑誌をデジタル化し、検索・閲覧できる昭和館オリジナルのデータベース。収録された雑誌間での横断検索も可能である。現在閲覧できる資料は「中央公論」「婦人公論」「写真週報」「文藝春秋」「改造」「防空新聞」「大毎小学生新聞」「少国民新聞(東日版)」「スポーツニッポン」「教材ニュース」「文化ニュース」等

○ 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム

防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデジタル化し、検索・閲覧できるオリジナルデータベース。キーワードによる横断検索も可能である。

(3) デジタルアーカイブの構築・公開

昭和館が所蔵する写真、映像、実物資料等の情報をインターネット上で外部公開するためのアーカイブを構築し、令和5年4月1日から「昭和館デジタルアーカイブ」の名称で公開した。

(4) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。

常設展示室の展示替えをはじめ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展や資料公開コーナー等の展示案内、紙芝居の上演会やオーラルヒストリー特別上映会といった催し物の案内に加えて、語り部育成事業についても研修の様子や定期講話会や語り部派遣等の最新情報発信のため、月2～5回の内容更新を行った。また、昨年引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する情報を掲載した。

令和4年度のアクセス数は次のとおりであった。

	アクセス数	月間平均アクセス数	開館時 (or 導入時) からの累計
ホームページ	349,984	29,166	4,403,640
内「キッズナビ」	9,620	802	225,908

※キッズナビの導入は平成18年

(5) SNSの活用

広報の一環として、Twitter、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

令和5年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

Twitter登録者数	Facebook閲覧者数	YouTube視聴回数
1,941	14,098	315,050

(6) Wi-Fi提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

令和4年度は、特別編として制作した元アナウンサーで放送局経営者の川平朝清氏の戦中編・戦後編の2作品を制作した他、横浜大空襲を体験された方など7名の聞き取りを行い、9作品を制作した。

令和4年度の制作作品は以下のとおりである。

作品タイトル	証言者
台湾から“故郷”沖縄へ	川平 朝清
放送を通じ沖縄の戦後を見つめて	川平 朝清
横浜大空襲を忘れない	中島 知子
女学生の戦後、看護婦として引揚船に乗るまで	中島 知子
八丈島から軽井沢へ疎開した私たち	沖山 操
地元の熊谷を襲った空襲	森田 隆夫
童謡歌手の戦争 芸能活動と疎開体験	矢田 稔
14歳で体験した川崎の空襲	梅津 政之輔
東京大空襲を生き抜いて	濱田 嘉一

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、教育委員会、東京特別区、全国の老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付した。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和くらし研究（紀要）」も併せて送付した。

令和4年度は、東京都の市区校長会がオンライン開催になり参加することはできなかったが、同校長会の協力を得て、令和4年6月に32市区1,061校の小学校5年生（千代田区は全校生徒）及び前年度に来館した小・中学校に昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより38号」、「作文コンクールチラシ」を送付し、来館促進を図った。

また、令和4年6月に全国の公立小・中・中等教育学校・高等学校に「昭和館だより38号」、「貸出キットチラシ」を送付した。11月に、全国の小・中・中等教育学校に対して「昭和館だより39号」を送付し、全国の中学校・中等教育学校・高等学校に「中学生・高校生ポスターコンクール」のチラシ等を送付し周知を図った。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館事業内容のPRのため、都営地下鉄九段下駅4出口、東京メトロ東西線2番ホーム、東京メトロ半蔵門線3番ホームの電飾掲示板に掲示し、事業内容のPR活動を行った。さらに、JR飯田橋駅構内に電飾看板を掲示し、JRの利用客にもPR活動を行った。

さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかどく」、

東京観光バリアフリー情報ガイド、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報等に当館の紹介記事を掲載した。

その他、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、東京新聞、埼玉新聞、日本教育新聞等に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を、学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」38号、39号を、令和4年5月と令和4年11月に発行し、(1)に記載した教育関係機関へ送付した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した人々が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後の暮らしの上での様々な労苦を次世代に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を育成する事業を平成28年度から開始した。

1期生から3期生まで募集を行い、月1回のペースで3年間の研修を実施し、「次世代の語り部」としての委嘱を受けた者は講話活動を行っている。

② 事業の実施状況

ア 令和4年度には、研修を修了した第3期生の委嘱審査を実施し、委嘱を受けた7名が9月の定期講話会から活動を開始した。

1期生、2期生の10名は昨年度に引き続き、定期講話会をはじめ小・中学校や自治体等からの要請を受け、講話活動を行った。

講話のテーマは以下のとおり。

	テーマ	対象
1	戦中の小学生	小学校高学年から中学生
2	学校生活と子どもたち（戦前・戦中編）	小学校6年生から中高生
3	軍事郵便を聞く	中学生から一般
4	戦争と学生	大学生から一般
5	軍国少年の戦中・戦後～終戦時13歳の今吉孝夫さんの体験を中心として～	中学生から一般
6	空白の3年8か月～天気予報と戦争～	中学生から一般
7	学童疎開～戦時下の親元を離れての集団生活～	小学校高学年
8	白米が憧れだった頃～戦中・戦後の人びとの米への強い思い～	一般
9	ぼくの家にも戦争があった	小学校中学年から中学生
10	沖縄の光と影～今を支える戦争の記憶～	小学校高学年から中学生

11	戦災孤児たちの願い～もしも魔法が使えたら～	小学校6年生から中学生
12	戦時下の中学生～学生生活と学徒労働員～	小学校6年生から一般
13	残された家族～家族を戦争で失くした人たちの思い	小学校5年生から一般
14	国策紙芝居で知る銃後の生活	小学校6年生から一般
15	聞こえない人と戦争	小学生から中学生程度
16	熱田空襲下の学徒動員体験記～航空機製造へ舵を切った愛知時計電機～	大学生から一般
17	戦中の子どもの学校生活～昭和8年生まれの子供たち～	小学校高学年

イ 定期講話会

令和4年度からは隔月ではなく、毎月第一日曜日に昭和館ニュースシアターで定期講話会を実施した（令和5年1月は第二日曜日）。各回2名の次世代の語り部が講話を行い、参加者数は以下のとおり。

回	開催日	参加者数
第11回	令和4年 4月3日	18人
第12回	5月1日	31人
第13回	6月5日	21人
第14回	7月3日	23人
第15回	8月7日	33人
第16回	9月4日	48人
第17回	10月2日	32人
第18回	11月6日	23人
第19回	12月4日	25人
第20回	令和5年 1月8日	16人
第21回	2月5日	22人
第22回	3月5日	10人
参加者数合計		302人

ウ 派遣講話

学校や自治体等からの要請を受けて派遣講話を行っている。実施状況は以下のとおりである。

派遣先	派遣件数	参加者数
学校関係	13	1,376
自治体関係	5	47
その他	6	130
合計	24	1,553

<派遣先> (派遣順・昭和館開催を含む)

【学校関係】埼玉県立与野高等学校／文京区小学校教育研究会社会科部／杉並区立杉並第六小学校／世田谷区立等々力小学校／大田区立志茂田小学校／世田谷区立経堂小学校／葛飾区立北野小学校／大田区立貝塚中学校（2回利用）／杉並区立杉並第三小学校／練馬区立石神井南中学校／東京都歴史教育研究会／横浜市立義務教育学校霧が丘学園／

【自治体関係】千代田区平和使節団／四街道市立図書館／千代田区立四番町図書館／新宿区立大久保図書館／市原市立国分寺公民館

【その他】ブックハウスカフェ（2回利用）／大きな木保育園学童・保護者／つづきの絵本屋／一般財団法人宮崎県遺族連合会／一般財団法人石川県遺族連合会

エ 「次世代の語り部」の紹介映像の制作を行い、令和5年3月に昭和館 YouTube で公開し派遣活動の認知度を高め利用促進を図った。

オ 育成事業の終了に伴い、講話の充実と「次世代の語り部」としての知識や意識の向上をはかるため、体験者との交流や語り部間の意見交換を行う等、フォローアップ研修を実施した。

(5) 第21回昭和館見学作文コンクール

新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受けて、来館する小・中学校団体が減少したため、令和2年度から募集対象の範囲を広げ、昭和館、巡回特別企画展を見学した小・中学生に加えて、「次世代の語り部」講話を聴いた小・中学生、昭和館 YouTube でオーラルヒストリー（証言映像）を視聴した小・中学生も対象として実施した。

令和5年1月15日（日）で締め切り、8校、1園（3校の小学生（6年）、個人5名（小4・小6・中2・中3）、応募対象外の幼稚園生（年長）1名）139作品の応募があった。募集対象の内訳は、見学が70作品、オーラルヒストリーが68作品、次世代の語り部講話が1作品であった。

2月に厚生労働大臣賞1作品・昭和館館長賞1作品、優秀賞8作品、審査員特別賞2作品、昭和館特別賞を決定した。3月上旬に賞状及び賞品の送付、3月下旬にホームページで各賞を発表し、厚生労働大臣賞及び昭和館館長賞の作品を公開した。

(6) 第15回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計109作品の応募があった。

審査の結果、広島県立沼南高等学校 稲垣 月奈さんの作品が最優秀賞に、優秀賞に8作品、佳作に11作品（入賞作品は全て別掲）が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」昭和館紀要『昭和のくらし研究』第21号を令和5年3月に刊行した（平成15年度から年1回刊行）

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第21号 目次

沖縄人捕虜のハワイからの帰還

—屋嘉・久場崎・インヌミ収容所まで—

・・・・関西学院大学非常勤講師・同志社大学嘱託講師 秋山かおり

日記にみる疎開児童の食糧事情—千駄木国民学校の集団疎開—

・・・・昭和館学芸部

昭和館所蔵 米国国立公文書館映像資料目録（3）

・・・・昭和館図書情報部 折原里枝

昭和館所蔵 学童疎開関係資料（手記・体験談）目録（3）補遺版

・・・・昭和館図書情報部 佐藤綾子

昭和のくらし研究第21号



3 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(令和5年3月31日現在 50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学名誉教授)
〃	宇 野 裕	(株式会社トーカイ社外取締役監査等委員)
〃	加 納 正 弘	(元厚生労働省大臣官房審議官)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	関 沢 まゆみ	(国立歴史民俗博物館副館長)
〃	松 井 かおる	(練馬区立石神井公園ふるさと文化館学芸員)
〃	和 田 幹 夫	(全国小学校社会科研究協議会会長板橋区立上板橋第四小学校校長)

4 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに23回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議 委員名簿

(令和5年3月31日現在 順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	増 田 弘	(立正大学法学部法学科特任教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	上安平 冽 子	(NHKグローバルメディアサービス元企画事業部長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	藤 田 琢 治	(練馬区立大泉学園中学校教諭)
〃	松 井 かおる	(練馬区立石神井公園ふるさと文化館学芸員)

5 インターンシップ

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

6 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔関係機関：厚生労働省社会・援護局援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館〕

- (1) 第22回会議を令和4年7月8日(金)に開催
第23回会議を令和5年2月3日(金)に開催

- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：令和4年7月16日(土)～9月4日(日)
参加者数：4,883人

- (3) 移動教室「軍人たちの描いた大陸スケッチ」を開催
開催期間：令和5年2月8日(水)～2月14日(火)
主 催：平和祈念展示資料館
協 力：昭和館、しょうけい館
場 所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー

- (4) 巡回特別企画展の相互協力
 - ・神奈川県における巡回特別企画展は、しょうけい館、平和祈念展示資料館と同じ会場で同時開催し、連携を図った。

 - ・沖縄県における巡回特別企画展では、しょうけい館と平和祈念展示資料館についてポスターを掲示する等の周知を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展「お菓子の記憶 ～甘くて苦い思い出たち～」

戦前から戦中・戦後のめまぐるしく変化する昭和の時代において、お菓子とその一番のパートナーである子どもたちがどのような道筋を辿ったのかを紹介した。

開催期間：令和4年7月16日（土）～9月4日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：10,793人（240人／1日平均）

<展示構成>

プロローグ

I. 戦争とお菓子

II. 終戦を迎えて

昭和館 特別企画展
お菓子の記憶
～甘くて苦い思い出たち～

入場無料

2022年
7/16 [土]～9/4 [日]
10時～13時30分 (入館は13時まで)
14時～17時30分 (入館は17時まで)

【休憩日】月曜日 (7/18・8/15は開催, 7/19は休館)
【全場】昭和館3階特別企画展会場
●休館：千代田区、千代田区教育委員会

昭和館
〒110-0074 東京都千代田区丸の内1-6-1
TEL 03-2222-2577 FAX 03-2222-2575 <https://www.showakan.go.jp>
https://twitter.com/showakan_museum <https://www.facebook.com/showakanmuseum/>

2 特別企画展「九段会館がみた昭和」

昭和館に隣接する九段会館は、設立当時は「軍人会館」と呼ばれ、激動の昭和史に大きく関わった。戦後は日本遺族会による運営のもと、結婚式場、宿泊、ホールとして、多くの方々に利用され、帝冠様式の威風堂々とした九段会館の姿は、九段下の象徴的な景観として長く親しまれている。

昭和の激動を見つめ続けた九段会館の歴史を紹介した。

開催期間：令和4年7月16日（土）～9月4日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：10,793人（240人／1日平均）

<展示構成>

- I. 軍人会館の設立
- II. 二・二六事件と軍人会館 ～戒厳司令部の設置～
- III. GHQによる接収 ～アーミーホール～
- IV. 九段会館としての再出発

The poster features a central image of the Meiji Shinko Building with two smaller inset photos showing historical views. Text on the poster includes:

- 入場無料 (Free Admission)
- 昭和館 特別企画展 (Shinjuku Special Exhibition)
- 九段会館がみた昭和 (The Meiji Shinko Building as Seen in Showa)
- 2022.7.16日 > 9.4日 (July 16, 2022 > September 4, 2022)
- ▶10時～13時30分 (入館は13時まで) (10:00-13:30, admission until 13:00)
- ▶14時～17時30分 (入館は17時まで) (14:00-17:30, admission until 17:00)
- 【休館日】月曜日（7/18、8/15は開館、7/19は休館） (Closed on Mondays (7/18, 8/15 are open, 7/19 is closed))
- 【会場】昭和館3階特別企画展会場 (Venue: Shinjuku Special Exhibition Hall, 3rd Floor, Shinjuku Museum)
- 後援：千代田区、千代田区教育委員会 (Sponsored by: Chiyoda Ward, Chiyoda Ward Education Commission)
- 昭和館 (Shinjuku Museum) logo and contact info at the bottom: 〒100-0072 東京都千代田区千代田1-6-1 TEL. 03-5525-0177 FAX. 03-5522-2676 https://www.shinjuku.go.jp

3 特別企画展「時代をまとう女性たち」

「ファッションは時代を映す鏡」という表現があるように、服装は時代の移り変わりと密接な関係にある。昭和の激しい社会変化も例外なく、和装から洋装へ、家庭裁縫から既製服へ、特に女性の服装に大きな影響を与えた。

本展覧会では、昭和の世相とともに移り変わっていった女性の服装について紹介した。

開催期間：令和5年3月11日（土）～5月7日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：10,409人（200人／1日）

<展示構成>

プロローグ

I. 戦時下の女性と服装

- (1) 統制される衣類
- (2) 銃後を支えた服装

II. 洋装文化の流入

- (1) 物資不足と洋裁の需要
- (2) 女性たちに浸透する洋装

III. 大衆化の時代へ

- (1) 職業デザイナーの隆盛とパリモード
- (2) 化学繊維時代の到来と大衆化



4 1階ロビーでの資料展示

1階ロビー資料公開コーナーのテーマに合わせて、実物資料の展示を実施した。令和4年6月30日（木）から12月27日（火）にかけて、「食とともに－昭和の食器－」と題したミニ展示を、令和5年1月17日（火）から6月25日（日）にかけて、「世相をうつす貯金箱」と題したミニ展示を開催した。

また、月ごとに資料を入れ替えながら、兵庫県西脇市在住の人形作家村上しま子さんの人形作品を展示している。

5 写真展

「乗り物のある風景－昭和のくらしと交通事情－」

開催期間：令和4年9月10日（土）から12月18日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：令和4年（2022）は日本で鉄道が開業して150年の節目にあたる。鉄道をはじめとする昭和に活躍した乗り物の写真を通じて、当時の世相や交通事情などを紹介した。

入場者数：13,051人

（約152人/1日）



6 写真展

「子どもたちの戦中・戦後」

開催期間：令和5年3月18日（土）から5月7日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：学校生活や子どもたちの遊んでいる様子、焼け跡でたくましく生きる戦災孤児の姿等の写真を通し、戦中から戦後にかけて、子どもたちを取り巻く社会がどのように移り変わったのかを紹介した。

入場者数：11,961人
（約266人/1日）



7 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する写真・映像資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーにコーナーを設けて、資料を随時公開している。

令和4年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第84回	第14回中高校生ポスターコンクール 入賞作品展示	令和4年4月5日（火） ～6月26日（日）
第85回	S Pレコード	令和4年6月28日（火） ～9月25日（日）
第86回	昭和の日常 昭和30～32年 ～鈴木路雄がみつめた茨城県古河～	令和4年9月27日（火） ～12月27日（火）
第87回	図書・雑誌に見る空襲への備え	令和5年1月5日（木） ～4月2日（日）

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

1 昭和館入場者状況の推移（平成11年度～令和4年度）

	常設展示室							合計	映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースシアター	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料								
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612	
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	-	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673	
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	-	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084	
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	-	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460	
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	-	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422	
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	-	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459	
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	-	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386	
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	-	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215	
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	-	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724	
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	-	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151	
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	-	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579	
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	-	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092	
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	-	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319	
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	-	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244	
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	-	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295	
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	-	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311	
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	-	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056	
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	-	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600	
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	-	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249	
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	-	70,584	31,176	17,626	141,383	156,586	417,355	
令和元年度	22,094	3,227	30,812	1,730	4,655	-	62,518	32,285	14,095	115,478	121,684	346,060	
令和2年度	8,117	805	3,792	661	1,695	-	15,070	10,116	4,573	33,389	7,966	71,114	
令和3年度	8,714	1,366	10,939	848	2,047	-	23,914	12,246	5,832	31,583	8,888	82,463	
令和4年度	14,955	2,728	26,768	1,361	4,638	-	50,450	19,239	9,351	52,320	12,055	143,415	
合計	633,360	68,154	601,050	24,324	119,643	-	1,446,531	739,301	424,217	1,543,612	2,432,677	6,586,338	

2 令和4年度利用者実績

(単位：人)

	常設展示室	映像・音響室	図書室	ニュースシアター	特別企画展等	合計	特別企画展等内訳
令和4年							
4月	2,266	1,643	717	1,158	10,796	16,580	4/1 (3/12~5/8) 特別企画展期間 4/1 (3/19~5/8) 写真展期間 4/3 語り部定期講話会
5月	4,682	1,545	863	1,161	4,929	13,180	~5/8 特別企画展期間 ~5/8 写真展期間 5/1 語り部定期講話会 5/28 紙芝居定期上演会
6月	4,912	1,315	642	988	21	7,878	6/5 語り部定期講話会
7月	3,946	1,454	874	1,136	2,815	10,225	7/3 語り部定期講話会 7/16~ 特別企画展 7/16~ 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 7/23 紙芝居定期上演会
8月	4,276	2,340	1,356	1,512	7,196	16,680	8/7 特別企画展期間 語り部定期講話会 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間
9月	3,651	1,318	718	1,057	3,840	10,584	~9/4 特別企画展期間 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 9/4 語り部定期講話会 9/10~ 写真展期間 9/24 紙芝居定期上演会
10月	4,168	1,814	641	866	3,744	11,233	写真展期間 10/2 語り部定期講話会
11月	5,816	1,761	762	911	5,476	14,726	写真展期間 11/6 語り部定期講話会 11/12 紙芝居定期上演会 11/18~11/26 神奈川県巡回特別企画展期間 11/30~ 沖縄県巡回特別企画展期間
12月	4,448	1,441	528	604	4,297	11,318	~12/10 沖縄県巡回特別企画展期間 ~12/18 写真展期間 12/4 語り部定期講話会
令和5年							
1月	3,003	1,307	652	773	95	5,830	1/8 語り部定期講話会 1/28 紙芝居定期上演会
2月	5,938	1,810	1,126	873	22	9,769	2/5 語り部定期講話会
3月	3,344	1,491	472	1,016	9,089	15,412	3/5 語り部定期講話会 3/11~5/7 特別企画展期間 3/18~5/7 写真展期間 3/25 紙芝居定期上演会
合計	50,450	19,239	9,351	12,055	52,320	143,415	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合(%)
50,450人	有料 19,044人	高・大学生	2,728人	5.4
		一般	16,316人	32.3
	無料 31,406人	小・中学生	26,768人	53.1
		視察者等	3,386人	6.7
		心身障害者	983人	2.0
		未就学児	269人	0.5

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合(%)
297校	小学校	268校	90.2
	中学校	21校	7.1
	高校	2校	0.7
	専門学校	1校	0.3
	大学	5校	1.7

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
4月2日	中央ろうきん友の会	22名	6月3日	杉並区立杉並第三小学校6年生	30名
4月8日	明治大学	23名	6月3日	八潮市立八條小学校6年生	60名
4月12日	江戸川区立下鎌田小学校6年生	37名	6月3日	中央区立月島第一小学校6年生	90名
4月15日	台東区立平成小学校6年生	30名	6月3日	川崎市立田島小学校6年生	69名
4月26日	板橋区立板橋第一中学校3年生	107名	6月7日	江戸川区立鎌田小学校6年生	104名
4月28日	中野区立令和小学校6年生	89名	6月7日	印西市立木刈小学校6年生	91名
4月28日	所沢市立宮前小学校6年生	63名	6月8日	府中市立住吉小学校6年生	89名
4月28日	横浜市立並木中学校2年生	48名	6月8日	新宿区立戸塚第三小学校6年生	30名
5月1日	写友会	20名	6月8日	茅ヶ崎市立松林小学校6年生	149名
5月7日	写友会	20名	6月9日	さいたま市立西原小学校6年生	107名
5月11日	写友会	20名	6月9日	川崎市立はるひ野中学校2年生	113名
5月11日	さいたま市立三橋小学校6年生	207名	6月9日	鴻巣市立鴻巣東小学校6年生	50名
5月12日	葛飾区立奥戸小学校6年生	65名	6月10日	北本市立西小学校6年生	85名
5月13日	立川市立第一小学校6年生	100名	6月10日	蕨市立塚越小学校6年生	71名
5月13日	品川区立芳水小学校6年生	92名	6月10日	町田市立忠生小学校6年生	97名
5月14日	川口市総務課 平和の大切さを考える見学会	20名	6月14日	白岡市立西小学校6年生	101名
5月15日	日本共産党 川崎区後援会	20名	6月14日	さいたま市立野田小学校6年生	32名
5月17日	北区立堀船小学校6年生	50名	6月14日	岡崎市立葵中学校3年生	37名
5月17日	幸町立北部中学校3年生	32名	6月14日	八王子市立第二小学校6年生	50名
5月18日	読売理工医療福祉専門学校	35名	6月15日	吉川市立旭小学校6年生	22名
5月20日	三郷市立丹後小学校6年生	64名	6月16日	杉並区立久我山小学校6年生	77名
5月24日	足立区立中川小学校6年生	70名	6月16日	草加市立潮崎小学校6年生	82名
5月24日	八王子市立下袖木小学校6年生	43名	6月17日	狭山市立山王小学校6年生	83名
5月24日	板橋区立成増小学校6年生	105名	6月17日	江戸川区立第二松江小学校6年生	37名
5月24日	町田市立町田第二小学校6年生	70名	6月17日	町田市立小川小学校6年生	88名
5月26日	八王子市立第七小学校6年生	96名	6月21日	市川市立南新浜小学校6年生	92名
5月26日	さいたま市立見沼小学校6年生	68名	6月21日	市川市立国府台小学校6年生	100名
5月27日	練馬区立小竹小学校6年生	46名	6月21日	練馬区立中村西小学校6年生	77名
5月27日	北区立谷幡小学校6年生	29名	6月21日	さいたま市立中島小学校6年生	75名
5月27日	船橋市立高根台第三小学校6年生	67名	6月22日	吉川市立吉川小学校6年生	101名
5月27日	三郷市立吹上小学校6年生	30名	6月22日	ふじみ野市立亀久保小学校6年生	88名
5月30日	小金井市立前原小学校6年生	85名	6月23日	吉川市立関小学校6年生	83名
5月30日	専修大学	20名	6月23日	加須市立不動岡小学校6年生	42名
5月31日	葛飾区立亀青小学校6年生	81名	6月24日	調布市立杉森小学校6年生	121名
5月31日	町田市立小山小学校6年生	149名	6月24日	羽島市立中央中学校3年生	34名
5月31日	札幌市立発寒中学校3年生	35名	6月24日	昭和町立押原小学校6年生	45名
6月1日	上尾市立平方北小学校6年生	23名	6月30日	中川村立中川西小学校6年生	23名
6月2日	二松学舎大学	21名	6月30日	船橋市立八木が谷小学校6年生	84名
6月2日	杉並区立四宮小学校6年生	132名	7月1日	町田市立つくし野小学校6年生	70名

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
7月3日	北区青少年滝野川西地区委員会	25名	9月22日	新宿区立落合第四小学校6年生	77名
7月5日	習志野市立屋敷小学校6年生	130名	9月22日	大田区立矢口小学校6年生	89名
7月5日	鎌ヶ谷市立五本松小学校6年生	114名	9月25日	勝浦市立勝浦中学校2年生	82名
7月6日	深谷市立川本北小学校6年生	59名	9月27日	江東区立扇橋小学校6年生	80名
7月6日	足立区立足立小学校6年生	99名	9月27日	江戸川区立鹿骨東小学校6年生	82名
7月7日	羽村市立武蔵野小学校6年生	81名	9月27日	新宿区立早稲田小学校6年生	79名
7月7日	中野区立谷戸小学校6年生	60名	9月27日	葛飾区立本田小学校6年生	47名
7月8日	成田市立向台小学校6年生	40名	9月28日	調布市立国領小学校6年生	60名
7月12日	台東区立東浅草小学校6年生	41名	10月1日	神二町会	20名
7月12日	西東京市立住吉小学校6年生	64名	10月2日	松阪市立嬉野中学校2年生	35名
7月12日	江戸川区立松江小学校6年生	98名	10月4日	新宿区立淀橋第四小学校6年生	50名
7月12日	中野区立啓明小学校6年生	50名	10月4日	和光市立広沢小学校6年生	74名
7月12日	越谷市立大沢北小学校6年生	94名	10月4日	練馬区立豊玉小学校6年生	91名
7月13日	葛飾区立梅田小学校6年生	86名	10月5日	秋田市立將軍野中学校3年生	89名
7月13日	洗足学園小学校6年生	72名	10月7日	板橋区立第一中学校1年生	98名
7月14日	足立区立千寿桜小学校6年生	62名	10月7日	山梨県連合婦人会	67名
7月14日	江戸川区立南葛西第三小学校6年生	78名	10月12日	沼田市立蓮根中学校2年生	55名
7月14日	渋谷区立富谷小学校6年生	93名	10月12日	近畿日本ツーリストWWIIツアー	22名
7月15日	江戸川区立二之江小学校6年生	60名	10月14日	私立東京シューレ江戸川小学校4～6年生	22名
7月15日	草加市立栄小学校6年生	107名	10月14日	板橋区立大谷口小学校6年生	50名
7月15日	西東京市立栄小学校6年生	110名	10月14日	静岡サレジオ中学校2年生	83名
7月20日	中野区立白桜小学校6年生	66名	10月18日	大田区立馬込第三小学校6年生	118名
7月21日	川崎市立登戸小学校6年生	91名	10月18日	河内町立かわち学園6年生	55名
8月2日	キッズビジョン	62名	10月19日	品川区立鯉浜小学校6年生	31名
8月26日	目黒区立田道小学校6年生	55名	10月19日	足立区立舎人小学校6年生	79名
8月30日	川崎市立東橋中学校3年生	179名	10月20日	富士宮市立富士根南小学校6年生	39名
9月6日	柏市立柏第七小学校6年生	104名	10月21日	あきる野市立東秋留小学校6年生	70名
9月8日	北区立西が丘小学校6年生	57名	10月21日	静岡市立清水有度第二小学校6年生	20名
9月8日	大田区立南蒲小学校6年生	65名	10月21日	調布市立富士見台小学校6年生	50名
9月9日	学校法人 国立学園小学校6年生	105名	10月25日	江戸川区立南葛西小学校6年生	87名
9月9日	市原市立ちはら台桜小学校6年生	110名	10月25日	八王子市立長池小学校6年生	96名
9月13日	江戸川区立東葛西小学校6年生	102名	10月25日	茅ヶ崎市戦没者遺族会	44名
9月13日	江東区立第四大島小学校6年生	63名	10月25日	翔洋学園高等学校	20名
9月13日	板橋区立前野小学校6年生	82名	10月26日	板橋区立中台小学校6年生	54名
9月13日	町田市立藤の台小学校6年生	96名	10月26日	麹町女子中学校2年生	82名
9月15日	町田市立鶴川第三小学校6年生	68名	10月27日	港区立青山小学校6年生	37名
9月16日	豊島区立さくら小学校6年生	61名	10月27日	相模原市立清新中学校2年生	190名
9月22日	船橋市立中野木小学校6年生	198名	10月27日	葛飾区立上平井小学校6年生	45名

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
10月28日	台東区立石浜小学校 6年生	49名	11月25日	練馬区立富士見台小学校 6年生	91名
10月28日	大月市立大月東小学校 6年生	46名	11月25日	千代田区立富士見小学校 3年生	85名
10月28日	立川市立上砂川小学校 6年生	85名	11月29日	葛飾区立末広小学校 6年生	57名
11月1日	調布市立緑ヶ丘小学校 6年生	64名	11月29日	杉並区立高井戸第二小学校 6年生	128名
11月2日	玉穂郷友会	26名	11月30日	渋川市立金島中学校 2年生	37名
11月2日	富士市立田子浦小学校 6年生	34名	11月30日	和光市立第五小学校 6年生	109名
11月4日	杉並区立杉並第九小学校 6年生	80名	11月30日	相模原市立藤野小学校 6年生	29名
11月4日	船橋市立夏見台小学校 6年生	103名	11月30日	静岡市立大里西小学校 6年生	136名
11月6日	和洋女子大学 4年生	26名	12月1日	杉並区立堀之内小学校 6年生	59名
11月6日	富士見市平和委員会	30名	12月2日	練馬区立田柄小学校 6年生	56名
11月8日	久喜市立栗橋南小学校 6年生	84名	12月2日	和光市立第四小学校 6年生	69名
11月8日	足立区立栗原小学校 6年生	65名	12月2日	八王子市立桐田小学校 6年生	88名
11月9日	多摩市立多摩第三小学校 6年生	23名	12月2日	茨城町遺族会	37名
11月10日	世田谷区立烏山北小学校 6年生	111名	12月2日	ドイツ大使館	21名
11月10日	府中市立府中第九小学校 6年生	65名	12月4日	伊勢原市遺族会	41名
11月10日	足立区立弘道第一小学校 6年生	51名	12月6日	多摩市立永山小学校 6年生	55名
11月10日	葛飾区立柴原小学校 6年生	47名	12月6日	葛飾区立細田小学校 6年生	77名
11月11日	江戸川区立船堀小学校 6年生	127名	12月8日	世田谷区立城山小学校 6年生	80名
11月11日	いきがい大学春日部学園	20名	12月8日	江戸川区立第五葛西小学校 6年生	81名
11月11日	多摩市立第三小学校	25名	12月8日	東久留米市立第十小学校 6年生	72名
11月15日	清瀬市立第十小学校 6年生	110名	12月8日	江戸川区立大杉東小学校 6年生	67名
11月15日	所沢市立北小学校 6年生	91名	12月9日	八王子市立横山第二小学校 6年生	56名
11月15日	目黒区立上目黒小学校 6年生	50名	12月9日	江東区立水神小学校 6年生	34名
11月15日	江東区立第三砂町小学校 6年生	74名	12月9日	江東区立深川第五中学校 1年生	23名
11月16日	さいたま市立大久保小学校 6年生	27名	12月13日	東久留米市立第五小学校 6年生	111名
11月17日	青梅市立吹上小学校 6年生	48名	12月13日	鎌倉市立今泉小学校 6年生	68名
11月17日	朝霞市立朝霞第一小学校 6年生	90名	12月14日	桐光学園小学校 6年生	65名
11月18日	文京区立窪町小学校 6年生	121名	12月14日	豊島区立豊成小学校 6年生	58名
11月18日	江戸川区立篠崎第二小学校 6年生	49名	12月15日	八王子市立鹿島小学校 6年生	26名
11月18日	江東区立豊洲北小学校 6年生	163名	12月15日	八王子市立七国中学校 1年生	27名
11月19日	滋賀県遺族連合会	20名	12月15日	川崎市立川中島中学校 2年生	26名
11月22日	小山市立絹義務教育学校 6年生	28名	12月15日	市川市立中山小学校 6年生	100名
11月22日	江戸川区立本一色小学校 6年生	60名	12月15日	葛飾区立柴又小学校 6年生	68名
11月22日	皆野町立国神小学校 6年生	28名	12月16日	調布市立第一小学校 6年生	97名
11月24日	江戸川区立上小岩第二小学校 6年生	50名	12月16日	藤沢医療生協歩く会	22名
11月24日	東久留米市立第九小学校 6年生	87名	12月16日	清瀬市立清瀬第七小学校 6年生	43名
11月24日	練馬区立開進第四小学校 6年生	92名	12月16日	杉戸町立泉小学校 6年生	25名
11月24日	江東区立数矢小学校 6年生	114名	12月16日	清瀬市立清瀬小学校 6年生	103名

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
12月16日	練馬区立石神井西小学校6年生	73名	2月7日	江東区立第四砂町小学校6年生	104名
12月20日	旭市立中央小学校6年生	112名	2月7日	取手市立取手小学校6年生	64名
12月20日	四街道市立和良比小学校6年生	105名	2月8日	いすみ市立夷隅小学校6年生	36名
12月20日	葛飾区立白鳥小学校6年生	85名	2月8日	三郷市立立花小学校6年生	19名
12月20日	杉並区立大宮小学校6年生	67名	2月9日	杉並区立杉並第六小学校6年生	46名
12月21日	調布市立柏野小学校6年生	84名	2月9日	八王子市立加住小学校6年生	34名
12月22日	江東区立香取小学校6年生	32名	2月9日	習志野市立袖ヶ浦東小学校6年生	49名
12月22日	東久留米市立第三小学校6年生	91名	2月9日	足立区立千寿常東小学校6年生	98名
12月22日	練馬区立光が丘夏の雲小学校6年生	87名	2月9日	日野市立日野第一小学校6年生	74名
12月22日	江東区立第二大島小学校6年生	39名	2月10日	習志野市立津田沼小学校6年生	101名
12月23日	江東区立深川小学校6年生	63名	2月10日	足立区立加平小学校6年生	77名
12月27日	中地区教職員組合	26名	2月10日	八王子市立第十小学校6年生	112名
1月17日	志木市立宗岡小学校6年生	67名	2月14日	清瀬市立第三小学校6年生	51名
1月17日	白岡市立南小学校6年生	101名	2月14日	江東区立南陽小学校6年生	128名
1月17日	東久留米市立第一小学校6年生	73名	2月14日	江戸川区立平井西小学校6年生	58名
1月17日	足立区立東伊興小学校6年生	82名	2月15日	文京区立小日向台町小学校6年生	80名
1月18日	三郷市立前間小学校6年生	37名	2月16日	武蔵野市立第四小学校6年生	56名
1月18日	大和市立草柳小学校6年生	61名	2月16日	世田谷区立塚戸小学校6年生	153名
1月18日	深谷市立深谷小学校6年生	65名	2月16日	足立区立栗原北小学校6年生	78名
1月18日	古河市立古河第五小学校6年生	20名	2月17日	練馬区立北町小学校6年生	132名
1月19日	船橋市立二宮小学校6年生	103名	2月17日	八王子市立川口小学校6年生	50名
1月19日	清泉インターナショナル3年生	45名	2月21日	板橋区立高島第二小学校6年生	68名
1月19日	加須市立花崎北小学校6年生	56名	2月21日	国分寺市立第六小学校6年生	72名
1月20日	幸手市立さくら小学校6年生	80名	2月21日	板橋区立上板橋第四小学校6年生	56名
1月20日	熊谷市立成田小学校6年生	81名	2月21日	八千代市立新木戸小学校6年生	112名
1月24日	東村山市立久米川小学校6年生	78名	2月22日	江東区立第五砂町小学校6年生	135名
1月24日	三郷市立彦成小学校6年生	97名	2月22日	曉星小学校3年生	118名
1月24日	栃木市立吹上小学校6年生	45名	2月24日	稲城市立稲城第二小学校6年生	26名
1月26日	大田区立志茂田小学校6年生	44名	2月24日	昭島市立共成小学校6年生	51名
1月26日	板橋区立下赤塚小学校6年生	78名	2月24日	多摩市立大松台小学校6年生	99名
1月26日	八王子市立陶鎔小学校6年生	77名	2月24日	江東区立砂町小学校6年生	92名
1月31日	守谷市立松前台小学校6年生	56名	2月24日	東京外国語大学1年生	20名
2月2日	長瀬町立長瀬第二小学校5,6年生	22名	2月26日	東京土建一般労働組合 世田谷支部	20名
2月2日	田園調布雙葉小学校6年生	116名	2月28日	横浜市立蒔田小学校6年生	78名
2月3日	成田市立成田小学校6年生	99名	2月28日	足立区立関原小学校6年生	68名
2月4日	陸上自衛隊中央音楽隊	37名	2月28日	荒川区立瑞光小学校6年生	84名
2月7日	葛飾区立北野小学校6年生	79名	3月2日	聖ドミニコ学園6年生	82名
2月7日	足立区立西新井小学校6年生	95名	3月2日	大田区立貝塚中学校2年生	63名

5 第21回昭和館見学作文コンクール

厚生労働大臣賞

戦争の記憶を未来へ

中学校（3年）上野 遙

令和4年7月3日に昭和館「次世代の語り部」である上野順一さんの講話を聴いた。「ぼくの家にも戦争があった」という題で、順一さんが父親の基さんから聞いた戦争体験についてお話して下さった。その内容を大まかに振り返ってみたい。

昭和10年、上野基は横浜に下駄屋の長男として生まれた。6人兄弟で唯一の男子だったためか、少し気弱な面もあった。父親の福次郎は無口で怖かったが、下駄職人としての腕は良く、8人家族は普通の暮らしを送っていた。しかし戦争が始まり、生活は一変する。昭和19年、基は小学3年の時に学童疎開を余儀なくされた。箱根湯本の恵比寿旅館で生活するようになるが、栄養失調になってしまい、短期間で帰宅した。学校に戻ろうとするが、そこは戦争により病院となっていたため隣町の学校に復学した。

1945年5月29日、基が10才の時に横浜大空襲が起きる。いつもと変わらない昼間、横浜市を中心とした地域がアメリカ軍の無差別爆撃の焼夷弾によって、火の海に一変した。死者は3,649人、負傷者は11,978人であったという。煙の中を必死に逃げ、なんとか家族全員無事だったが、変貌した街を見て悲しさが込み上げてきた。

戦争が終結しても、その傷跡は残り続けた。食糧が十分になく満足に食事ができなかつたり、アメリカ兵が家の周りで騒いでいることに恐怖を感じたりした。不安な出来事は後を絶たず、戦前のような安心した日々を送ることは難しかった。それでも人々は復興に向けて前向きに歩み出し、1950年には基も日本通運に就職して働き始めたのだった。

以上が伺った戦争体験の内容だが、考えさせられることが多々あった。特に戦時下の生活の悲惨さから、当たり前の日常を送ることができる幸福を改めて実感させられた。講話の最後に、順一さんが現在の基さんの言葉を引用した。「戦争体験は、忘れたくもないが思い出したくもない記憶。毎日が平凡であることは有難いのだから、感謝しなければならぬ。戦争について考えることは平和について考えることだ。」と。この言葉には、基さんの苦々しい戦争の記憶と平和への願いが強く込められていると感じた。戦争は心身共に人々を傷つけ、そこから得られるものは何もない。しかし、現在でもウクライナとロシアの間では戦争が行われ、多くの犠牲者が出ている。戦後77年が経過した今もなお、私たちは戦争の惨禍を目の当たりにしているのだ。これからの未来を担っていく私たちにできるのは、基さんもおっしゃっていたように、残酷な過去から教訓を学び、歴史を受け継いでいくことだろう。今後も戦争を起こさないための知識を磨き、希望の持てる平和な世界をどうしたら築いていけるのかを、自分なりに絶えず考えていきたいと思う。

昭和館館長賞

空ばくのおそろしさを知って

小学校（6年）小林 蒼衣

私は半藤一利さんのオーラルヒストリーの動画を見て、日本が戦争をしていたころ、日本に空ばくがあり、そのころを生きていた人達はこんなに大変な毎日をすごしていたということを初めて知りました。今の東京はたくさんのビルが建っていて、とてもきれいな都会だと思っていたけれど、78年前は、たくさんの家が焼かれ、たくさんの人が亡くなっていたことにおどろきました。しかも私は、空ばくの経験が無いので、毎日空ばくを受け、つらい生活が当たり前のようだった半藤さんは毎日、命がけで、大変だったんだと思いました。もし、私がおのころにいたらきょうふのあまり固まって動けなかったんじゃないかと思います。その中でも半藤さんは、私と同じくらいの年でありながら、冷静に判断してにげているのがすごいと思いました。半藤さんの一つ一つの行動で生きるか、死ぬかが、決まるんだなと思いました。

半藤さんの話でとても印象に残ったことは、見ず知らずの人が半藤さんにくつをわたしてくれたという話です。空ばくが終わり、家に帰る時、くつが無く、地面が熱くて困っていると、近くの人が落ちていた誰かのくつをわたしてくれました。私はそのやさしさに感動しました。自分がくつを持っていても、子どもが困っていることに気づけないと思うし、もし気づいていてもあんな状況の中であげることは出来なかったのではないかなと思います。あんな大変な目にあっても人を思う気持ちを私も大切にしたいと思いました。

もう一つ印象に残った言葉は、「俺はこれから絶対という言葉を使わない」と、半藤さんが言っていたことです。「絶対日本は勝つ」などの言葉は、全部うそだと語っているのを見て、私も絶対ってことは無いんだなと思いました。予想もしていなかったことが起きて、とても悲しかったんだと思います。

このインタビューを見て、私は戦争をしてはいけないと思いました。戦争をするとたくさんの人が焼け死んでしまったり、おぼれ死んでしまいます。そういう姿を見たくないのだから戦争はしてはいけません。今、世界でも戦争が起こっています。戦争はその国だけの問題ではなく、日本にもたくさんのえいきょうが出ています。日本も北朝鮮やかん国、中国、ロシアとの領土の問題で解決できていないことがあります。その一つ一つの問題を少しずつ解決していかないと、戦争が起こってしまいます。見て見ぬふりをしないで一つずつ向き合って解決していかなければいけないと思います。

6 第15回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介



最優秀賞
広島県立沼南高等学校
稲垣 月奈
【お母さんミシン上手だね】



優秀賞
富山第一高等学校
藤樫 優華
【昭和の戦争時の風景】



優秀賞
広島県立沼南高等学校
松田 翔太
【お母さんのお手伝い】



優秀賞
富山第一高等学校
大田 陽香
【昭和の公衆電話】



優秀賞
富山第一高等学校
今井 志保
【未来に伝えて】



優秀賞
広島県立松永高等学校
今岡 花音
【昭和の生活】



優秀賞
富山第一高等学校
石川 ここあ
【昭和の暮らし】



優秀賞
富山第一高等学校
加藤 琴音
【家電・歴史】

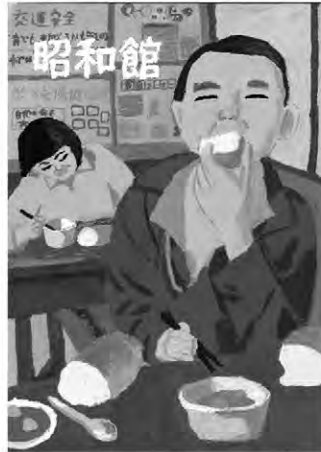


優秀賞
広島県立松永高等学校
川東 琉緯
【幸せな時間】

佳作 (11点)



【人形と少女】
埼玉県川越市立高階中学校
小川 七星



【待ち遠しかったこの時間】
広島県立松永高等学校
光野 竜翔



【戦時中の緊迫】
浦和麗明高等学校
栗田 莉央



【戦争】
富山第一高等学校
寺田 サワナヤ



【古き良き時代】
新潟県見附市立西中学校
斉藤 奈月



【米つきびんは僕の仕事】
明聖高等学校
菅野 和輝



【メディアを通じた昭和の女優達】
東京都立上野高等学校
田中 真歩



【戦争】
富山第一高等学校
浦田 彩衣



【回想】
新島学園中学校
飯塚 麻緒



【昭和のファッション】
広島市立舟入高等学校
石井 さえ



【徴兵に行く大切な人に、花を渡す】
神奈川県立茅ヶ崎高等学校
鈴木 若葉

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

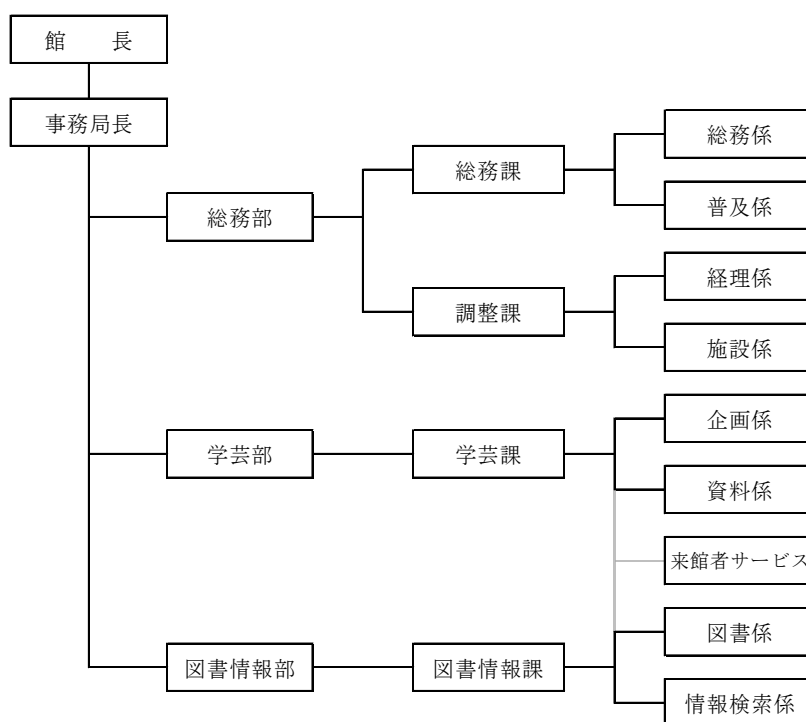
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施設

面積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組織



8 令和4年度寄贈者御芳名

本年度に資料をご寄贈くださいました方のお名前を記してお礼といたします。

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名	都道府県	寄贈者名	都道府県	寄贈者名
北海道	北海道博物館	東京都	世田谷区政策経営部政策企画課区史編さん担当	静岡県	静岡県遺族会
宮城県	仙台市博物館	〃	総務省大臣官房総務課管理室	〃	高塚熊野神社
〃	仙台市歴史民俗資料館	〃	台東区教育委員会	愛知県	愛知県東海市教育委員会 社会教育課
〃	東北歴史博物館	〃	たばこと塩の博物館	〃	安城市歴史博物館
山形県	米沢市上杉博物館	〃	千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室	〃	瀬戸蔵ミュージアム
栃木県	ピースうつのみや	〃	帝京大学総合博物館	〃	知立市教育部文化課文化振興係
群馬県	重監房資料館	〃	東京家政学院生活文化博物館	〃	東海市の戦争を記録する会
埼玉県	川越市立博物館	〃	東京都写真美術館	〃	豊田市戦没者遺族連合会
〃	狭山市立博物館	〃	東京都博物館協議会	〃	名古屋市博物館
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会	〃	道具学会・事務局	三重県	四日市市立博物館
〃	蔵市立歴史民俗資料館	〃	豊島区立郷土資料館	滋賀県	滋賀県平和祈念館
千葉県	鎌ケ谷市郷土資料館	〃	日本カメラ博物館	京都府	京都大学大学文書館
〃	国立歴史民俗博物館	〃	日本大学企画広報部広報課	大阪府	大阪歴史博物館
〃	市立市川歴史博物館	〃	八王子市郷土資料館	〃	外邦図研究グループ
〃	野田市郷土博物館	〃	物流博物館	兵庫県	明石市立文化博物館
〃	船橋市郷土資料館	〃	文京ふるさと歴史館	奈良県	奈良県総務部知事公室防災統括室
〃	歴史認識問題研究会	〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室	〃	奈良県立高田高等学校・高田高等学校創立百周年記念事業実行委員会
東京都	HOSEIミュージアム事務室	〃	港区総務部 総務課 人権・男女平等参画係	〃	平群町役場 総務防災課
〃	JCIIフォトサロン	〃	明治学院大学国際平和研究所	和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	NPO法人国際浮世絵普及協会	〃	明治大学史資料センター	島根県	松江歴史館
〃	足立区郷土史料刊行会	〃	明治大学博物館	岡山県	岡山空襲展示室
〃	荒川ふるさと文化館	〃	陸軍少飛平和記念の会	広島県	NPO法人 ANT-Hiroshima
〃	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係	〃	立教学院展示館	〃	(呉市)文化スポーツ部文化振興課 市史編さんグループ
〃	板橋区立郷土資料館	神奈川県	JICA海外移住資料館	〃	西日本電信電話株式会社 中国支店 事業推進室
〃	株式会社吉川弘文館	〃	大磯町郷土資料館	〃	広島県地域政策局平和推進プロジェクトチーム
〃	北区飛鳥山博物館	〃	小田原城天守閣	〃	広島市文化財団(戸坂公民館)
〃	クマヒラ	〃	神奈川県立神奈川近代文学館	山口県	周南市美術博物館
〃	公益財団法人 水交会	〃	神奈川大学非文字資料研究センター	愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	公益財団法人 通信文化協会 博物館部(郵政博物館)	〃	川崎中原の空襲・戦災を記録する会	福岡県	福岡市総合図書館 文学・映像課 古文書係
〃	公益財団法人 海原会	〃	戦時下の小田原地方を記録する会	〃	福岡市美術館
〃	公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館	〃	平塚市博物館	佐賀県	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
〃	國學院大學博物館	〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館	大分県	宇佐市教育委員会社会教育課平和ミュージアム建設準備室
〃	国際武器移転史研究所	〃	横浜開港資料館	〃	大分県立先哲史料館
〃	公益財団法人 政治経済研究所 東京大空襲・戦災資料センター	〃	横浜市歴史博物館	〃	大分市歴史資料館
〃	一般社団法人 日本郷友連盟	〃	横浜市史資料室	宮崎県	宮崎県遺族連合会
〃	(社)日本図書館協会	〃	横浜みなと博物館	〃	みやざき歴史文化館
〃	しょうけい館	新潟県	妙高市遺族会	鹿児島県	知覧特攻平和会館
〃	昭和女子大学光葉博物館	富山県	富山市郷土博物館	〃	万世特攻慰霊碑奉賛会
〃	昭和天皇記念館	石川県	石川県立美術館	沖縄県	沖縄県公文書館
〃	新宿区総務部総務課	福井県	福井県立歴史博物館	〃	沖縄県平和祈念資料館
〃	杉並区立郷土博物館	〃	福井県立若狭歴史博物館	〃	中城村教育委員会 生涯学習課 文化係
〃	杉並区立郷土博物館分館	長野県	飯田市美術博物館	〃	ひめゆり平和研究所
〃	すみだ郷土文化資料館	岐阜県	岐阜市歴史博物館	〃	ひめゆり平和祈念資料館
				〃	元全学徒の会

図書資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
山形県	地主武
茨城県	鈴木路雄
埼玉県	大山均
千葉県	工藤里美
〃	黒田明
〃	小長谷宏道
〃	中島行雄
〃	藤井晴雄
〃	松山朋子
東京都	石川義弘
〃	石黒敬章
〃	以南靖宏
〃	浦野照一
〃	押田信子
〃	片岡寛治
〃	加田斎
〃	加藤千裕
〃	工藤一嘉
〃	黒崎浩二
〃	黄彦傑
〃	幸田正子
〃	齊藤勉
〃	櫻井隆
〃	菅谷雅彦
〃	曾根清吉
〃	巽裕子

都道府県	寄贈者名
東京都	塚本洋三
〃	築山巖
〃	露木玲子
〃	半藤末利子
〃	蓑宮武夫
〃	村田多恵子
〃	持田美枝子
〃	吉永亜子
〃	渡部眞一
神奈川県	大堀聰
〃	下重清
〃	竹本秀晴
〃	松村妙子
〃	森本浩吉
〃	山本緑
〃	吉井葉子
石川県	土山正雄
長野県	竹村 淳
静岡県	柴田宏祐
愛知県	小林光昭
京都府	石川晃
大阪府	小林充
奈良県	岡崎邦夫
島根県	高塚久司
〃	若杉愛
広島県	原田隆雄

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者氏名
茨城県	加藤紘子
千葉県	山田弘美
東京都	大野博良
〃	小笠原博通
〃	村田多恵子
〃	森田由和
〃	Timothy Jhon Marrable
神奈川県	篠原裕子
〃	竹本秀晴
〃	師岡文男
大阪府	小林充

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
東京都	浦野照一
東京都	半藤末利子

昭和館館報 第24号 (令和4年度)

令和5年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577